第131号　2025年（令和7年）6月6日 発行

清々しい新緑、小鳥のさえずりを聞きながらの毎月のおはなし会、斎藤惇夫さんの講演会で盛り上がった大地の丘。文庫まつりで更に盛り上がり、恵みの雨をうけ草木や木、そして畑の野菜たちも、"伸びられるとき伸びんとす"カエルたちも大合唱、エネルギーあふれる初夏へと向かいます。

6~7月の文庫スケジュール

- 6/7(土) 大地ののはな文庫まつり ピンス・オブ・ワンダー
- 6/11(水) 文庫開館 14:00~16:30
- 6/12(土) 第1回 本の会 [大人対象] 9:50~12:00 — 今年度は松岡享子著「ランプシェード」を楽しみます。
- 6/18(水) 文庫開館 14:00~16:30
- 6/26(木) 文庫開館 14:00~16:30
- 6/28(土) 文庫おはなし会 19:00~10:30 — 9:15~9:35 旨でおはなし会 / 9:40~10:10 大きい子(年長児)以上のおはなし会 / 10:40~10:50 おやつタイム
- 7/2(水) 文庫開館 14:00~16:30
- 7/9(水) 文庫開館 14:00~16:30
- 7/12(土) お父さんのラッパ話おはなし会 (午後) — 詳細は後日別紙にて
- 7/16(水) 第2回 本の会 [大人対象] 9:50~12:00 / 文庫開館 14:00~16:30
- 7/19(土) 文庫おはなし会 (午前) — 詳細は後日別紙にて
- 7/20・21(日・月) 円乗さんを囲んでの合宿おはなし会 [大人対象] — 詳細は後日(要確認)

今回は、なしとなりました

小さい子 いちご おおきくなーれ

たむら しげる 作（福音館書店）

この時期、畑で苺が実るのを楽しみにしている娘ホノカ。本の中で、真っ赤で美味しい苺を心待ちにするネズミの気持ちにシンクロして、「まだかなー もう少だねー」と楽しんでいる姿が可愛らしかった。（赤木 優理 薦）

日 エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネットさく
ルース・クリスマン・ガネットえ
わたなべ しげお やく（福音館）

ちょっと大きくなった子が、冒険の旅に出かける1冊めは、これがいいと思う。エルマーがリュックに詰めていくものが、とっても魅力的!!（渋谷 早苗 薦）

やらいの子 万次郎さんとたぬきのこ

ぶん 本田 いづみ 元北村人（福音館）

最近うちのお寺にたぬきが棲みついています。万次郎さんが出会ったこだぬきたちのように、月夜の晩に腹つづみを聞かせてくれないかなあ～（兼子 有紀 薦）

文庫に『ののはなさんのおすすめ本コーナー』を新設しました!! ぜひ、ご覧になってみてくださいね!

NEW

ののはなさんのおすすめ本 コーナーから一部ご紹介!

子どもと本とボクのおうちじかん

斎藤惇夫さんの講演会の夜、実家で瀬田貞二さんの『ねむりひめ』を見つけました。これは運命だ！と思い、そのまま子どもたちに読み聞かせをしました。言葉のリズムが心地よくて、読んでいる自分もすーっと物語に引き込まれていきました。気付けば、子どもたちはすっかり夢の中に。この本は、それから毎晩、夜の読み聞かせの定番に。一歳半の次男も、絵本を開くとそっと耳をすませてくれます。この本の裏表紙には、「のりひろ」と、母が書いた私の名前が。かつて母が読んでくれた本を、今、私が子どもに読んでいる。まるでねむりひめに出会った王子のように、幸運なめぐり合わせでした。（飯森則裕さん）

新コーナー！ あなたの素敵なエピソードもお寄せください!!

4/26 4月の文庫おはなし会 より…

飯森 葉子

初めて、自分がおはなし会のプログラムを作る側になり、赤木さんと一緒に考え、練習して、いざ当日！たんぽぽや桜など春を喜ぶののはなたちでお姫さまを作っていき、「おはながわらった」新バージョンをお届けしました。こどもたち皆「うわぁ～！」と目をキラキラ。終わったあと、「どうやって作ったの～？」とちょっぴりお花のお姫さまのワークショップで盛り上がりました。野のもので遊ぶのは、いくつになっても本当に心躍ります。おはなしの後のおやつタイムには、桜やスミレ、宴の花等、春を彩るののはなのゼリーを持っていきました。見て、作って、食べて楽しい、ののはな尽くし、こどもたちの「わあ～」が嬉しいおはなし会になりました

<小さい子のおはなし会>
子ども14人 大人12人参加
♡ちゅーちゅーちゅー
♪おはながわらった
♪キャベツとあおむし
♪どっこいしょ
♡ちゅーちゅーちゅー
語り手：赤木・飯森

<大きい子のおはなし会>
子ども12人 大人10人参加
♪しゃんしゃんしゃん
♪腰折れ雀
♪大工のきつつきさん
♪産神さまの選定め
♪みどりいろのたね
語り手：伸子・さおり

5/17 斎藤惇夫さん講演会 より…

赤木 伸枝

午前は、子ども達に良い本を手渡す大切さをより深く学びました。「相手は子どもなんだぜ」という赤羽まきさんの言葉が印象的で、子ども相手だからこそ、いっさい手を抜かない仕事をする。トロントの図書館員が蔵書を決める際の議論も、この言葉に尽きる！と感じました。午後はスマホやメディアについて語って頂きましたが、子どものための本を作ってきた第一人者の生の言葉はとても重みがありました。「子守り唄はお母さんが子どもに伝える最初の美しい文学」と表現されていて、絵本の読み聞かせはもちろん、わらべうたやおはなしを、子ども達と一緒にもっと楽しんでいきたいと思いました。

5/24 5月の文庫おはなし会 より…

藤松 羽順

久しぶりのお話会当番でした。数日前のリハーサルは、聞き手を想定した細かい確認作業。のんたん母さんともっちーのやり取りを聞き、「親子でお話会をじっくり味わってもらうためには」と真摯に考えるお2人の姿に感銘を受けました。当日は読み手として、親子のかけあいが可愛い絵本を読みました。子どもたちの大きな瞳にみつめられる幸せな時間。わらべうたでお父さんお母さんにくすぐられる子どもたちの嬉しそうなこと！そしてもっちーの語り「いたずらこうさぎ」の可愛さよ!! 大きい子のお話会は5月にちなみ、「5月のある日…」から始まる「胴長のプレッツェル」から青ちゃんお得意「アナンシと五」まで、親子の笑い溢れる「5づくし」でした。「お話会って、来てくれる人を想うすてきな時間なんだ」とあらためて感じた日でした。

<小さい子のおはなし会>
子ども6人 大人3人参加
♡ちゅーちゅーちゅー
♪ついておいで
♪ここにとうちゃんにんどころ
♪いたずらこうさぎ
♡ちゅーちゅーちゅー
語り手：藤松・渋谷

<大きい子のおはなし会>
子ども11人 大人12人参加
♪どうながのプレッツェル
♪きびだんご
♪アナンシと五
語り手：伸子・繁

4/26 ゆずり葉の会 より…

大津賀 久弥子

ガイヤシンフォニー第1番をみて、象の姿が印象的だった。象は人間の良い部分だけを持つ生き物であり、悪い部分を持っていないそうだ。象はインドでは神様だ。そんな象を人間は欲だけで襲い、殺す。しかし象は人間を恨んだりしない。象が死ぬと仲間達は象牙を隠す。私は、自分の祖母からの形見の象牙のネックレスを見て、無知は本当に罪なことだと思った。人間はこの地球上で動物や植物の命をいただき生きさせてもらっている。命をいただくことに日々感謝し、命を無駄に奪わない選択をしていきたい。

わらべうた

おすわりやーす　いすどっせ　あんまりのったら　こけまっせ

ドドドドレド　レレレラ　レレレ　レドド　レレレラ

（子どもをヒザにのせて　ゆらゆら）　（さいご下におとす）

育休歌人 藤松健介の 短哥欠、詠まんか？

短歌とは、57577の5句31音からなる短い詩です。俳句と異なり、季語はありません。57577に収まっていれば ほぼ何でもOKです。ちなみに短歌の数え方は 一首、二首…です。ここでは、日々の中で感じたできごとや 風景を、短歌に詠んでいきます。

帰り来し吾子の弁当箱をあけ桜ひとひら見つけたるかな

野に湧ける泉のごとき群生のすみれの前にしゃがむ子と子

初回サービス 今回は二首！

詩

（童詩屋）幼い子の詩 パタポンより

ことり

まど・みちお

ことりは
そらで うまれたか
うれしそうに とぶよ
なつかしそうに とぶよ
ことりが
そらの なかを

ことりは
くもの おとうとか
うれしそうに いくよ
なつかしそうに いくよ
ことりが
くもの そばへ

文庫の あるある日

文庫のベランダに、春の絵本が並び、読んでもらったり、ワイワイ遊んだりの子どもたち。ベランダの手すりに登ろうとする小さい子達が『登ったらヘビになるよ』と声かけをしています。卒園したお姉さん達もその事を知っていて：大地の言い伝えは、他にも沢山ありそうですね！（武野あさみ談）

どこからきても どなたでも！
大地ののはな文庫
TEL 026-253-8902 〒飯綱町倉井210
daichi-nagano.sakura.ne.jp